

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県宮城野高等学校] 担当教諭名 [鈴木幸恵・菊地敏広] (国際・語学ゼミ 39名)
 相手国・地域 [インドネシア]
 海外学校名 [SMA Santo Paulus Pontianak] 担当教諭名 [Lenny Lenny]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
	総合的な探究の時間	異なる背景を持つ同世代と未来をデザインする	41

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Cintai bumi / Love the Earth / 地球を愛そう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ●世界中で手に入るきれいな水。水は私たちの生活に欠かせない。みんながきれいな水を手にできるよう排水に責任を持とう。水の将来は私たちの行動にかかっている。 ●国境のすべてをなくし、国同士のつながりを強固なものとし、インターネットのように国境を超えて地球全体で一つの国の様に互いを支え合い補い合う関係になるといい。 ●世界の教育基準を高めよう。そのために教育水準の低い国について調べ、理解を深めることが大切だ。 ●ごみの分類や収集など、日常でできることを一人一人が考えて、世界中の人々が協力して、汚染のない川と海を作っていこう。海や川の汚染によって、動物たちが苦しんでいる。すべての生物が生きやすくなるように。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・主にグループでの活動で運営し、多くの課題を与え、手の空く生徒がゼロになるよう毎回の活動を設定した。生徒達はなかなか答えが見えない課題を何とかこなしながらも、議論した分を壁面に表現しようと、壁面のテーマ、絵の要素と全体像に関わる議論が熱を帯び、壁画塗布の際は美術科2年生の2人の生徒が他の生徒から出たデザインをまとめ、指示を出し、全員が塗布に関わることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に生徒から出た意見を担当者がForumに投稿する流れで進めた。後半にはレポート役を当てて、この系の生徒達が写真や動画を撮り、活動の報告をアップした。相手校の先生とスケジュールを合わせ、着実に進めるようにこのような形態をとったが、もっと生徒達が直接Forum投稿に関わり、互いの生徒達同士で親近感を得られる形を取れば尚良かった。 ・オンラインのプレゼンテーションの際、時間の制限等

<ul style="list-style-type: none"> 英語でのテーマ作りに集中する生徒、グループでアイデアを出してそれを絵に表現する生徒、各アイデアを全体像に形作る生徒等、各自が得意な分野でチームワークを発揮して作品を仕上げた。 スケジュール管理と各回の活動の指示は担当者が行い、どの活動をしたかは生徒の自主性に任せた。人数の不均衡はあったが、自ら選んだ活動なので積極的に取り組めた様子であった。 	<p>があるとどうしても目の前の原稿を頼りに一方的な話し方になってしまう。途中で気づいて自分の生徒に関しては調整できたが、先方の生徒達のプレゼンテーションをこちらの生徒が「わかる、共感する」まで持って行くことが出来なかった。そのためには相手の先生と互いの生徒の理解度を事前に打合せ、話させる分量、スピード、間、アイコンタクト等を調整すべきだった。</p>
--	---

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に自らの意見を出し、議論の深まりの中から解決策を得ようとした。 グループ内の議論の話題が多岐に渡り、ありきたりではなく各自の探究心から答えを得ようとした。 相手の生徒達の作業まで考えを巡らせたり、1年生が2年生との議論に臆せず混ざったりと「自分事」として活動を受け止め主体的に取り組んだ。 英語はもはや言語の壁ではなく、「伝えようとする工夫」をすれば自分のものに出来ると感じた。 2年生が英語の動画作成のために、1年生に対して数回プレゼンテーションを行い、1年生がスピードやアイコンタクトの点の評価をするという互いに躊躇しそうな活動をしたが、2年生は「練習のお陰で自分なりにうまくできた」、1年生は「何が大きかわかった」といった前向きな反応で、客観的に活動を捉え向上心を持って臨んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校の先生と国を越えて同じ目線で双方の生徒達の活動を後押し出来ている実感があって、Forumへの投稿が海外の同僚と近況報告をしあっているような楽しさになっていたり、同じ働く女性として共感をしたり、メディアには載っていない現地の生の状況、声を知ることが出来たりと、人として繋がりたい、知りたいという気持ちが高まっていった。 相手校の先生が多忙でスケジュールを合わない時があったが、それこそが相手国が抱える教育現場の問題だと気づいた。また、議論の遅れのためにこちらで十分に組み立てなかった分の壁面の塗布を相手校の生徒達が遅くまで残って仕上げてくれたことを知って、若い力の可能性に触れさせてもらい、この先生と生徒達に出会わせてくれたこの協働学習プログラムに感謝し、このプログラムはここまで引き出すのだと驚嘆している。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> SDGs概要説明、テーマ確認 インドネシアの概要レクチャー 自己紹介、集合写真撮影 班に分かれ、テーマを決め、マインドマップで考えを広げる 班ごと、論点、提示の方法を決定 スライド、動画、原稿等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介動画作成では、班毎に自由に場所、自己紹介の仕方を考え、個性溢れる動画を作った。 テーマ決めでは、水か産業か自由に選び、積極的に班毎に議論を進めた。 各班独自のスライド等を作成した。 	探究
共有 <small>相手と意見交換</small>	7月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> 班毎に論点をアップロード 模造紙にまとめ、展示発表 Zoomによる相手校生徒の発表 相手校生徒のスライドを読み、インドネシアからの回答、解決策を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校の発表は本校生徒には難しく、質疑応答では一人の生徒の質問で終わってしまった。しかしスライドを読む作業に熱心に取り組み、理解した内容を元に論点を深める討議では回答を得るのに苦戦した。 	探究
融合 <small>メッセージ作成</small>	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> メッセージ、全体像の絵、周辺の絵、Forumアップ、1年生のプラゴミまとめに分かれて、各班で作業の上、Forumに投稿した 相手校と相談し、メッセージ、全体像、周辺の絵を決定 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージに関わるキーワードを日本語でまとめ、英訳する作業、絵に関わるアイデアを出し合い、絵の得意な生徒に描いてもらう、など各自得意な分野で力を発揮し、それを連携して集中して壁画を仕上げた。 	探究

創造 壁画制作	12月	・美術科生徒2名のリードのもと、普通科生徒の全体像、周辺の絵をまとめ、下絵の描写、壁画塗布	・美術科生徒が下絵の描き方、配色、色のトーン等において皆をリードし、数名が周辺の絵の選択、配置等の討議を重ね、全員が塗布に関わった。	探究
評価 振り返り 自己評価	12月 3月	・分かれて作業を行った12月の活動後、自らの活動内容を記述 ・3月の壁画到着後、ルーブリックと記述で自己評価を実施	・相手校から届いた完成した壁画を目にして歓喜の声が上がり、同封されたバティック、スナックを手にして嬉しそうだった。活動を振り返り、熱心に感想等を書き込んでいた。	探究

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	インドネシアの水、教育の状況を目のあたりにし、日本の状況がいかに整っているかを実感した。この活動に合わせて実施した、地元大学のインドネシア人の大学院生による自国に関する講義、音楽体験、料理試食でさらにインドネシア文化の素朴さや鮮やかな彩色、刺激的な料理の味付けに日本との相違点と差異を感じた。また学生達の親しみやすい人柄を相手校の生徒や先生にも感じ、安心してインドネシア文化を楽しんだ。親しみやすい国民性でありながら、相手校の生徒達がシャイだという点に共感を抱いたが、互いのアイデンティティ、特性等にもっと目を向ける機会を作りたかった。
主体的に考え行動する力	5	グループ内議論において、友人達と深く話し合い、Zoomや動画で話し合った内容を元にスピードやアイコンタクト、ジェスチャー等に気を付けながら何度も練習してそれぞれ納得いく英語での発表を行った。壁画のテーマ、絵、絵の構成に関しても、各グループで熱心に議論し、「自分事」として課題を見つめ、この活動に貢献しようという態度が随所に見られた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	意見を出し合って比較検討しながら最善策を得た。特に壁画の絵の要素を詰めていく際は、多くのアイデアを出し合い、相手側の意見の良さ、欠点等詳細まで検討したうえで考えをまとめていった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	インドネシアの学生を意識し、ゼミ内の友人との議論でも相手の意見を聞きながら答えを出した。互いの絵のタッチにギャップがある点を事前にゼミ内の美術科の生徒に伝え、どうしたら相手校の生徒達との壁画が一貫したテーマを表わす一枚の絵になるか話し合ったところ、相手側のダークカラーを活かすのに黄色の背景を選び、絵の各要素が融合するように、日本側で描く部分を割り当てた。美術科の生徒達は、他の生徒達のアイデアをまとめ形にしていく作業はしたが、全員で作る作品だという点にこだわり、他の生徒達のサポートに回った。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	時間が十分に取れなかったこともあり、テーマ、絵の要素、全体像を考える活動をグループに割り振り、それぞれ議論しながら形にしていた。英語でのテーマ作成班では友人同士や、教師のサポートを活用し、絵の要素ではアイデアがある生徒が、絵を得意とする生徒に伝え協力して形にし、全体像ではインドネシア側で選ばれたものを話し合っ調整し、多くの生徒の意見が凝縮されたものとなった。